

いきもの解説



武

コウヤボウキ
 <10月下旬～11月下旬>
 明るい林の縁などに生育する低木で、キクの仲間です。高野箒（こうやぼうき）の名前は、細い茎が丈夫でしなやかなため、高野山で束ねて箒に使ったことによります。



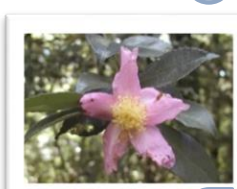
武

ヒイラギ
 <11月上旬～1月下旬>
 柊（ひいらぎ）の漢字のとおり、冬に花を咲かせます。節分にヒイラギの枝とイワシの頭を戸口に刺し、魔よけに使うことで有名です。



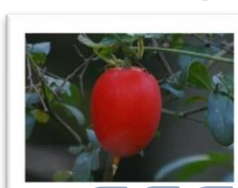
武

アワコガネギク
 <10月下旬～11月下旬>
 黄色い花が泡のように集まって咲くことから名前がつけました。別名はキクタニギクで、自生していた京都を流れる菊谷川の上流地域「菊深（きくたに）」にちなみます。



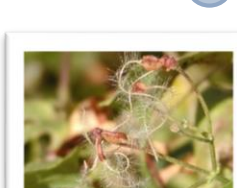
武

サザンカ
 <10月上旬～12月下旬>
 「さざんかの宿」「たきび」の歌でもおなじみの山茶花（さざんか）。日本でしか見ることのできない「日本固有」の植物です。名前の由来は、ツバキの中国名である山茶花を取り違えたと言われています。



武 水 路

カラスウリ(実)
 <10月下旬～1月下旬>
 木からみついて、楕円形の赤い実がぶらさがっています。この果肉や果汁は荒れ止めの民間薬としてひび割れや霜焼けに用いられます。漢方では根を通経や利尿、種子を鎮痛、咳止め、消炎剤などにします。



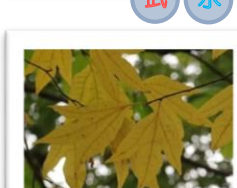
武 水

センニンソウ(実)
 <10月下旬～12月下旬>
 果実につく毛を仙人のヒゲに見立てたことが名前の由来。茎や葉から出る汁液にさわるとかぶれることがあります。



水 路

ムラサキシキブ(実)
 <10月下旬～12月上旬>
 美しい紫色の実を「紫支部」の名前にたとえ、この名前がついたと言われています。



武

シロモジ(黄葉)
 <11月中旬～11月下旬>
 葉が美しい黄色に色づきます。本州では中部地方以西の山地に生育する樹木です。3つに裂ける葉の形がおもしろいため、茶庭などにも植えられます。



路

カンアオイ
 <10月下旬～11月下旬>
 冬でも葉が緑色で、葉の形がアオイの仲間に似ていることから「寒葵（かんあおい）」の名前がつけました。葉の根元には径2cmほどの暗紫色の花が咲いています。

花



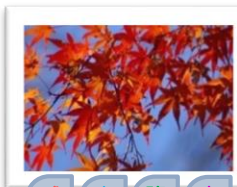
水 路

ハゼノキ(紅葉)
 <11月上旬～12月上旬>
 赤い紅葉が見事。ウルシの仲間で、樹液でかぶれることもあります。海岸近くの低い山に生育しますが、果実から口ウをとるために古くから栽培もされてきました。



水 路

サネカズラ(実)
 <9月下旬～1月中旬>
 鮮やかな赤い実がたくさん集まってボール状になります。つやのある鮮やかな色合いが食欲をそそりますが、あまり甘みはないようで、食用にはされません。



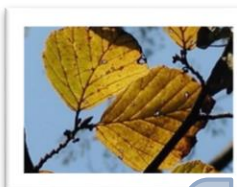
武 水 路 森

イロハモミジ(紅葉)
 <11月下旬～12月下旬>
 「もみじ」の代表選手。イロハモミジの名前は、子どもたちが、この葉の裂片を「いろはにほへと」と数えたことによります。



路

ヤツデ
 <10月下旬～1月中旬>
 おしべ→めしべの順で熟し、めしべが熟す時期にはおしべはなくなります。これは、同じ花の花粉がめしべにつく「自家受粉（じかじゅふん）」を避ける、遺伝的多様性を守る工夫です。



路

マンサク(黄葉)
 <11月下旬～12月上旬>
 葉が美しい黄色に色づきます。名前の由来は、数多くの花が咲くときは豊年「満作」となるという説と、春に他の花に先駆けて咲くので「まず咲く」がなまったという説があります。

水生植物園に多い



コバネイナゴ
 ヒメガマやススキなどの植物にいる姿をよく見かけます。水田など、主に湿った草地にすむイナゴの仲間、イネの害虫としても有名です。佃煮などにして食べられます。